

参考資料1

National Nanotechnology Initiative
(March 31–April 2, Washington D. C. 2004)

会議報告(速報)

平成16年4月13日

米国国家ナノテクノロジー会議（NNI）参加の件速報

1. 会議の日程

- Pre-Conference Work Shop : 3月31日 8:30-17:00
- 本会議 : 4月1日 8:00-17:30
4月2日 8:00-16:30

2. 参加の目的

- 国家ナノテクノロジーイニシアチブに基づいて今後実施される各省の計画に関する情報を収集し、米国政府のナノテクに対する基本方針や動向、現状の進捗程度などを把握する。
- 米国の科学技術会議議長を務める米科学財団ロコ博士と面会し、ナノテク研究について意見交換。

3. ワークショップ

- 本会議に先立ち、3月31日にナノマニファクチャリングに関するワークショップが開催され、①製造②設計③研究④ベンチャーと小企業の役割⑤ナノマニファクチャリングセンターの5セッションについて講演があった。

4. 本会議

- 冒頭、ロコ博士から「The Nanotechnology Initiative : Plans for the next Five Years」のタイトルで会議の主旨を伝える基調講演があり、2001年から現在までの3年間のプログラムの進展と、NSF 始め各省の予算と取り組みの推移、2015年を想定した実現目標が示された。
- ライス大スモーリー教授から化石エネルギー枯渇に備えてナノテクノロジーを活用すべきといった主旨で招待講演があった。
- 米議会議員の講演をはさんで、各省と国立研、拠点大学の研究センターから取り組みの現況や設備も含めた今後の計画についての講演があった。
- 成果の点では、非常に際立ったものは見られなかった。特徴的であったのは、10代以下の子供までを対象としたナノテクノロジーの教育プログラムへの様々な取り組みを紹介し将来に備えていることを感じさせた点、情報ネットワークの整備によるデータベースの活用や研究センターの活用促進への取り組みが強調されていた点と、ナノバイオニック分野への取り組みが目立った点など。
- 人間、環境、社会への影響に対する取り組みについてロコ博士が言及したほか、環境省、National Nanotechnology Coordination Office から取り組みが発表され、議員のひとりからはナノテク研究の逆風に対抗するため、ナノテクノロジーのプラスの効果をもっと正当に評価、公表していくことが必要との講演があった。

5. 所感

- 会議参加者は 400 名程度。7 割が大学、2 割が政府関係者、1 割が企業といった割合。日本からも 10 名を超える参加があった模様。
- 会議の主旨どおり参加者の関心は予算がどのように配分され、研究開発に留まらず、施設の充実や教育、small company への事業化支援といった多方面に亘る計画を熱心に聴講し、大企業や Big University への予算偏重など厳しい質問やコメントを加えていた。
- 今回は特に「From Vision to Commercialization」のサブタイトルで商業化までを視野に入れた会議であるとのことであったが、印象としてはむしろ萌芽的研究と挑戦的で長期に亘ることが予想される基礎的研究の必要性を主張する内容が多かった。
- 従って、ナノテク研究の成果を誇示する会議というよりも、これまでの予算措置によってとられた施策や、本年始めに成立した今後 5 年の予算を決めるナノテク法によって費やされる研究開発投資の説明責任に応える会議であったと判断される。
- 会議開催によってナノテク R&D が関係各省にまたがって方向性を持ちながら進めている印象を政府と国民に PR でき、一方各省は大統領が進めるナノテク重視路線に沿って予算獲得することができる、という両面の効果を狙う側面もあったと思料する。 以上